

## 2025年度 教育課程（2学年）

区分	教育内容	科目	単位	時間数	備考	掲載ページ
基礎分野	科学的思考の基盤	倫理学	1	15		94
		キャリア教育論Ⅱ	1	15		95
	人間と生活、社会の理解	自己の探求	1	15		102
	小計		3	45		
専門基礎分野	疾病の成り立ちと回復の促進	病態と診療Ⅳ	1	30		103
	健康支援と社会保障制度	公衆衛生学	1	30		107
		社会福祉	1	30		108
		関係法規	1	30		109
		臨床心理学	1	15		110
		リハビリテーション論	1	30		111
	小計		6	165		
専門分野	基礎看護学	看護リフレクションⅡ	1	30		112
	地域・在宅看護論	地域・在宅在宅看護概論	1	30		113
		在宅看護技術	1	30		114
		対象に応じた在宅看護	1	30		115
		成人看護学	臨床推論	1	30	
	老年看護学	老年看護援助論Ⅰ	1	30		117
		老年看護援助論Ⅱ	1	30		118
		老年看護援助論Ⅲ	1	15	試験時間含む	119
		認知症看護	1	15	試験時間含む	120
	小児看護学	小児看護学概論	1	30		121
		小児疾患の病態と診療	1	15		122
		小児看護援助論Ⅰ	1	30		123
		小児看護援助論Ⅱ	1	30		124
	母性看護学	母性看護学概論	1	30		125
		周産期の診療	1	15	試験時間含む	128
		妊産婦の援助論	1	30		129
		母と子の援助論	1	30		130
	精神看護学	精神看護学概論	1	30		131
		精神疾患の病態と診療	1	30		132
		精神看護援助論Ⅰ	1	30		133
		精神看護援助論Ⅱ	1	15		134
	看護の統合と実践	看護研究方法論	1	30		135
	臨地実習	基礎看護学実習Ⅱ	2	80		136
		基礎看護学実習Ⅲ	2	80		137
		成人・老年看護学実習Ⅰ	2	80		138
		成人・老年看護学実習Ⅱ	2	80		139
	小計		30	905		
	総合計		39	1115		

科目名 倫理学	授業担当者 鈴木 祐丞	所属 秋田県立大学	
開講時期: 中期～後期	単位数: 1 単位	時間数: 15 時間	
<b>授業の目的</b> 現代の集約的畜産に付随する動物倫理の問題——われわれは(家畜)動物に対して(どれほど)配慮すべきか——について、功利主義や権利論(義務論)の立場からの議論を理解したうえで、何が正しいのか考える。			
<b>授業の概要</b> 科学・技術の発展により、以前は存在しなかった倫理的な問題がいろいろな形で姿を現している。畜産が資本主義に取り込まれた現代社会においては、畜産場で鶏・豚・牛たちが「モノ」のように扱われることが普通であり、「肉を食べる」という日常的な行為すらも善悪という問題を抱えこんでいる。その問題をめぐって、他者との対話をつうじて、自分自身の見解を形作ってもらいたい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 授業をつうじて考えたこと、疑問に思ったことなどを、リアクション・ペーパーにまとめてもらう。リアクション・ペーパーは第 2、4、6 回の授業中に記入してもらい、提出してもらう予定である。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	授業についての説明／動物の権利運動、動物解放論、動物の福祉・動物の権利などについて	講義	
2	『実践の倫理』(1): 功利主義と平等	講義	
3	『実践の倫理』(2): 種差別と人間中心主義	講義	
4	『実践の倫理』(3): 「利害に対する平等な配慮の原則」	講義	
5	『実践の倫理』(4): 肉食のボイコット	講義	
6	<i>The Case for Animal Rights</i> : 権利論(義務論)、「生の主体」と「内在的価値」	講義	
7	映画「いのちの食べかた」(ニコラウス・ゲイハルター監督、2005年): 畜産の現場の実状	映像資料視聴	
8	“A Frequently Asked Question: What about Plants?” : 植物への配慮について	講義	
	期末レポート		
<b>テキスト</b> レジュメを配布する。			
<b>参考書・指定図書</b> ピーター・シンガー『実践の倫理』、山内友三郎ほか訳、昭和堂、1999 年 Tom Regan, <i>The Case for Animal Rights</i> , University of California Press, 2004.			
<b>評価の方法</b> 平常点(受講状況など) 20% リアクション・ペーパー 30% 期末レポート 50%			

<b>科目名</b> キャリア教育論Ⅱ	<b>授業担当者</b> 日野 由樹子 渡部 暢子	<b>所属</b> 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
<b>開講時期</b> : 前期～後期	<b>単位数</b> : 1 単位	<b>時間数</b> : 15 時間	
<b>授業の目的</b> プロジェクト学習を通してパーソナルポートフォリオからキャリアポートフォリオを作成し、将来自分が目指す看護師像を描き、意志ある学びを実現する。			
<b>授業の概要</b> キャリア教育論Ⅰを基礎として、自分の資質や夢と専門性を重ね、キャリアビジョンを描き、プロジェクト学習とポートフォリオを実践します。将来自分が目指す看護師像に向かって行動することができることを期待します。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 実習ポートフォリオの作成の仕方について理解できるようキャリア教育論Ⅰの確認をしておこう。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1・2・3	ベッドサイドから情報を獲得できる実習にしよう！プロジェクト	プロジェクト学習	
4	ベッドサイドから情報を獲得できる実習にしよう！プロジェクト 成長報告 実習ポートフォリオについて(基礎Ⅲ実習前)	プロジェクト学習	
5・6	マイルストーン「キャリアビジョン実現！」プロジェクト	プロジェクト学習	
7・8	「自分の意志で未来を描こう！」プロジェクト 成長報告(1年生と合同)	プロジェクト学習	
<b>テキスト</b> 鈴木敏恵著 キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会			
<b>参考書・指定図書</b> 鈴木敏恵著 ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院 鈴木敏恵著 アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する 医学書院			
<b>評価の方法</b> 情報獲得(45点)・実習ポートフォリオ(10点)・マイルストーン(35点)・成長報告(10点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

## プロジェクト学習・シラバス

<b>科目名(副題)</b>	意志ある学びー未来教育 「ベッドサイドから情報を獲得できる実習にしよう！」プロジェクト	
<b>講師／ファシリテータ・協力者ほか</b>	(スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生) 日野由樹子・渡部暢子	
<b>単位・時間・受講対象</b>	4月下旬～5月上旬 3コマ(6時間) 2年生	
<b>学習概要 (社会的意義)</b>	<p>&lt;概要&gt;</p> <p>臨地実習の限られた時間の中で、何を学ぶために実習に行き、何を獲得するのか、学生自身も目標を明確にもつことが必要となる。臨地実習では、その疾患の患者の何を見る(情報獲得)必要があるのか、そのためには何を考えて行動するのか「考動知性」について学ぶ。また、患者を把握して、状況全体を描き、“察して動ける力”を身につけることが必要である。</p> <p>R10を活用し、リアルな架空の患者を想定し、その状況から今一番必要な情報を獲得するには何を見て、どのように声をかけ行動するのかを考える。得た情報と患者がどうなって欲しいかを考え、行動に結びつけられるようにグループで考えてまとめ、発表する。</p>	
<b>キーワード</b>	考動知性 情報獲得 ベットサイド キャリアビジョン キャリアストーリー	
<b>身につく力</b>	<b>専門知</b> <input type="checkbox"/> 対象をイメージする力 <input type="checkbox"/> 情報を見極める力 <input type="checkbox"/> 根拠ある情報を獲得する力 <input type="checkbox"/> 優先順位を決める力 <input type="checkbox"/> 課題解決力	<b>普遍知</b> <input type="checkbox"/> コミュニケーション力 <input type="checkbox"/> 観察力 <input type="checkbox"/> 俯瞰力 <input type="checkbox"/> 情報を取捨選択する力 <input type="checkbox"/> 多角的にものを見る力 <input type="checkbox"/> 考えて行動できる力 <input type="checkbox"/> セルフコーチング力 <input type="checkbox"/> より成長しようとする意欲
<b>学習の成果物</b>	対象患者を訪室した時の「考動知性」を考えた凝縮ポートフォリオ	
<b>評価方法</b>	取り組み姿勢(自己評価)・プロジェクト学習の内容 (35点) 「アクションシート」(10点)	45点/100点
<b>実施計画／関連予定</b>	基礎看護学実習Ⅱ：2025年5月19日～5月29日 基礎看護学実習Ⅲ：2025年7月7日～7月17日	
<b>講義室・場所</b>	中通高等看護学院 図書室	

<b>展開内容</b>	<p>ビジョン：実習時、ベッドサイドに行ったらどこを見ればいいかわかっている学生になりたい</p> <p>ゴール：実習時、ベッドサイドで素早く的確に情報獲得できるようになる！</p> <p>1回目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. チームテーマをもとに R10 を作成する</li> </ol> <p>2・3回目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ビジョン・ゴールの確認</li> <li>2. 「考動知性」とは（講義）</li> <li>3. R10 を活用し、そのシーンで獲得すべき情報、考動知性を考える（ワーク）</li> </ol> <p>何を見て、何を考え、どのように行動するのか（ワーク）</p> <p>グーグルクラスルームにまとめる（ワーク）</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>4. プレゼンテーション</li> <li>5. アクションシートの記入</li> <li>6. リフレクション（アクションシート）</li> </ol> <p>4回目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1.成長報告</li> </ol>
<b>テキスト・参考図書</b>	<p>資料 R 考動知性 アクティブラーニングをこえた看護教育を実現する 医学書院 ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院</p>
<b>履修要件</b>	
<b>他講義との関連</b>	<p>キャリア教育論 I ・各臨地実習</p>
<b>受講生へのメッセージ</b>	<p>臨地実習開始にあたり、看護計画立案、実習記録など大変だと思っている学生は多いと思います。このプロジェクトを通して、考動知性について学び、実習時にベッドサイドに行ったらどこを見ればいいかがわかり、的確に情報獲得をして考えて動けるようになれば、自信をもって実習に臨めると思います。それが看護計画や記録にも活かされるはずで。意識して観たものは記憶に残りやすいので、国家試験の状況設定をイメージすることにも役立つはずで！</p>
<b>プロジェクト学習 eラーニング</b>	<p>検索「未来教育オンライン講座」 <a href="http://www.mm-miraikyokuiku-onlinecourse.com/">http://www.mm-miraikyokuiku-onlinecourse.com/</a></p>

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI 時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

## プロジェクト学習・シラバス

<b>科目名(副題)</b>	自ら学び続ける看護師になるためにー未来へキャリアストーリーを描こう！(1)ー マイルストーン「キャリアビジョン実現！」プロジェクト	
<b>講師 ／ファシリテータ・協力者ほか</b>	(スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生) 日野由樹子・渡部暢子	
<b>単位・時間・受講対象</b>	2025年11月中旬 2コマ(4時間) 中通高等看護学院 2年生	
<b>学習概要 (社会的意義)</b>	<p>&lt;概要&gt;</p> <p>成長へのモチベーションを高めるためにインパクトシートを共有する。シートで表現することにより、自己が叶えたい未来イメージを意識化し具体的に描くことでキャリアビジョンにもつなげることができる。</p> <p>キャリアビジョンを明確にし、課題を認識したうえで自己のキャリアストーリーを描けるように、ニーズとシーズについての講義から看護者に求められる能力(社会ニーズ)と自身が提供できる能力(シーズ)を明確に捉え、目指す看護師像に近づくためにキャリアプラットフォームを作成する。5月に作成したキャリアポートフォリオを活用し、セルフコーチングできるよう、リフレクション、リフレーミングと4つのキャリアシーンについて理解する。</p> <p>ありたい状態・目標とする姿(なりたい未来の自分)と現状とを対比させ、そのギャップを埋めるための方策を自身の意思で立て、マイキャリアストーリーの実現に向けて自身を動機づけていく。</p>	
<b>キーワード</b>	キャリアビジョン マイキャリアストーリー キャリアプラットフォーム ニーズとシーズ	
<b>身につく力</b>	<b>専門知</b> <input type="checkbox"/> 看護者に求められる資質に関する知識 <input type="checkbox"/> 目指す看護師になるために必要な学びや体験をイメージできる力	<b>普遍知</b> <input type="checkbox"/> ビジョンを描く力 <input type="checkbox"/> より成長しようとする意欲 <input type="checkbox"/> 自尊感情、自己肯定感 <input type="checkbox"/> ニーズとシーズ <input type="checkbox"/> 必要な情報を獲得する力 <input type="checkbox"/> 探究する力、行動力
<b>学習の成果物</b>	キャリアビジョンが描ける マイキャリアストーリーの実現	
<b>評価方法</b>	取り組み姿勢(自己評価)・プロジェクト学習の内容 (25点) 「アクションシート」(10点)	35点/100点
<b>実施計画／関連予定</b>	キャリア教育論Ⅱ 講義1回目～4回目 成人・老年看護学実習Ⅰ・Ⅱ 2025年9月22日～10月3日、10月14日～10月24日	
<b>講義室・場所</b>	中通高等看護学院 図書室	

<b>展開内容</b>	<p>目的（ビジョン）：ニーズとシーズが明確になる。</p> <p>目標（ゴール）： キャリアストーリーを描ける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の流れの説明（俯瞰シート）</li> <li>2. インパクトシート共有（プレゼンテーション）</li> <li>3. ニーズとシーズ講義</li> <li>4. ニーズとシーズ 共有</li> <li>5. キャリアビジョンシート追加</li> <li>6. キャリアプラットフォーム 記載</li> <li>7. リフレクション（アクションシート）</li> </ol>
<b>テキスト・参考図書</b>	キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会
<b>履修要件</b>	
<b>他講義との関連</b>	キャリア教育論Ⅰ・各臨地実習
<b>受講生へのメッセージ</b>	<p>インパクトシートに記載することで、看護のやりがいや喜びを再発見しよう。</p> <p>自己が叶えたい未来イメージを意識化し具体的に描くことでキャリアビジョンにもつなげよう。</p>
<b>プロジェクト学習 eラーニング</b>	<a href="http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/">http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/</a>

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

## プロジェクト学習・シラバス

科目名(副題)	<p>－未来へキャリアストーリーを描こう！－ (2)</p> <p>「自分の意志で未来を描こう！」プロジェクト ー成長報告ー</p>	
講師/ファシリテーター・協力者ほか	日野由樹子・渡部暢子	
単位・時間・受講対象	3月上旬～中旬 2コマ(4時間) 2年生	
学習概要 (社会的意義)	<p>＜概要＞</p> <p>看護師になるために、2年間重ねた学習を通して知識と技術を身につけ、臨地実習では、臨床判断能力を養い、対象の状況に応じた看護について考え、成長してきた。自分自身の成長を可視化するために、成長エントリーシートにポートフォリオを俯瞰し、成長したこと、考え方や視点などを記載し、その中から成長best3を成長報告書に記載する。成長報告をプレゼンテーションすることで、1人ひとりの価値ある経験を共有し、未来の自分をイメージすることができる。長期的ループリックで自分を振り返るとともに、1年後の自分をイメージする。看護という仕事の価値に気づき、モチベーションを高め、どんな学習や経験を重ねて看護師を目指すのか、意志ある学びを確認する機会とする。</p>	
キーワード	経験の価値化 暗黙知の顕在化 記憶の可視化 資質 成長 キャリアビジョン キャリアストーリー	
身につく力	<p>専門知</p> <p><input type="checkbox"/>メタ認知能力</p> <p><input type="checkbox"/>経験の価値化</p> <p><input type="checkbox"/>暗黙知の顕在化</p>	<p>普遍知</p> <p><input type="checkbox"/>俯瞰力</p> <p><input type="checkbox"/>自尊感情、自己肯定感</p> <p><input type="checkbox"/>プレゼンテーション力</p> <p><input type="checkbox"/>ビジョンを描く力</p> <p><input type="checkbox"/>より成長しようとする意欲</p>
学習の成果物	「成長報告」と「私の履修カルテ」	
評価方法	アクションシート 10点/100点	
実施計画/関連予定	<p>11月中旬</p> <p>－未来へキャリアストーリーを描こう(1)－</p> <p>「キャリアビジョン実現！」プロジェクト</p> <p>実施計画</p> <p>3月上旬 ガイダンス 「成長エントリーシート」配布</p> <p>3月上旬～中旬 1. 「成長エントリーシート」の交流 (1年生合同)</p> <p>2. プレゼンテーション</p> <p>3. 共有したことから「感じたこと・考えたこと」記載し、共有</p>	
講義室・場所	中通高等看護学院 教室2	
展開内容	<p>目的(ビジョン)：</p> <p>この1年間の成長(価値ある学び)を交流し、最高学年になる自分を意識し、看護師として社会人となる自覚と責任をもてるようになる</p>	

	<p>目標（ゴール）： この1年の成長（価値ある学び）を共有し、キャリアビジョンを描くことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の流れの説明（俯瞰シート）</li> <li>2. 「成長エントリーシート」の交流（1年生合同）</li> <li>3. 共有したことから「感じたこと・考えたこと」記載し、共有</li> <li>4. 長期的ループリックの記載</li> <li>5. キャリアビジョンシートの記載および交流</li> <li>6. リフレクション</li> </ol>
テキスト・参考図書	<p>キャリアストーリーをポートフォリオで実現する 日本看護協会出版会 ポートフォリオとプロジェクト学習 医学書院</p>
履修要件	
他講義との関連	キャリア教育論 I
受講生へのメッセージ	<p>臨地実習を経て学んだこの1年間の学びを交流することで自己の成長を確認しよう。最高学年になる自分をイメージして学習を重ね、キャリアビジョンを描き、自分の望む未来に向かって自分で成長していきましょう！ 未来は皆さんのものです！</p>
プロジェクト学習 eラーニング	<p><a href="http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/">http://www.mm-miraikyouiku-onlinecourse.com/</a></p>

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

科目名 自己の探求	授業担当者 堀 裕美	所属 元 中通高等看護学院	
開講時期: 前期～中期	単位数: 1 単位	時間数: 15 時間	
<b>授業の目的</b> 自己を内省し、自己肯定感を高め、看護者としての自己の在り方を理解する。			
<b>授業の概要</b> 看護者として他者を支援するためには、しっかりと自己を確立しておくことが求められる。自己肯定感を支える6つの要素を理解し、ワークを通じて自己理解・他者理解を深めていく。自分を知り受容することは、ゆるぎない自分の軸を定め、ありがたい自分と不完全な自分の両面を受け入れ調和をとりながら、自己実現を可能にする。また、看護者としての心のケアとして、感情のコントロール、ありのままの自分を受け止める(マインドフルネス)、自分に思いやりをもつ(セルフ・コンパッション)についての技法も学ぶ。看護を学ぶ皆さんが、ありのままの自分の良さを認め、人の役に立てることへの喜びを感じられるように願い、この授業を設定した。自分らしさを尊重できることは、看護の対象のその人らしさや、その人らしい暮らしを支援することにも反映されると期待する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	自己肯定感の6つの感、自分を知るワーク①	講義	
2	自己肯定感を高める	講義	
3	自分を知るワーク②	講義	
4	感情のコントロール、課題の分離	講義	
5	マインドフルネス	講義	
6	マインドフルネスと自己受容	講義	
7	セルフ・コンパッション	講義	
8	自分を癒す、リラクゼーション法、アロマセラピー	講義	
<b>テキスト</b>			
<b>参考書・指定図書</b> 中島輝著 何があっても「大丈夫。」と思えるようになる自己肯定感の教科書 SB クリエイティブ 吉田昌生著 こころが軽くなるマインドフルネスの本 清流出版			
<b>評価の方法</b> 授業への参加状況、授業中の課題			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅳ（１） 歯・口腔疾患	<b>授業担当者</b> 東海林 克	<b>所属</b> 大曲中通歯科診療所	
<b>開講時期</b> :前期～中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間 (歯・口腔疾患 6 時間)	
<b>授業の目的</b> 歯・口腔疾患の発生原因、その進行過程、疾患の診断のプロセス、そして各病期における治療法の概要と、「口腔ケア」についてその要点に関して理解する。			
<b>授業の概要</b> 歯・口腔疾患は耳鼻咽喉科や眼科などほかの感覚器分野とは異なり、診療報酬体系も医科とは別となることから、大学医学部付属病院、歯科大学附属病院、等の特殊な環境下に所属しない限り看護経験をすることのない分野である。 世界の先進国の中で類を見ることの無い超高齢社会となった現在の日本、特に秋田では「口腔ケア」を必要とする要介護者がさらに増えてきている。また、近年ではがんを始めとした手術や化学療法、放射線治療の期間中における「周術期等口腔機能管理」が注目されている。 本講はむし歯や歯周病を中心とする口腔内に発生する疾患について総説して、「口腔ケア」をする際に要介護者やがん患者の口腔内の状況を正確に把握できる基礎知識を習得するとともに、日常看護業務に含まれる「口腔ケア」を適性に行うことができるようになることを期待して、上記3項目を主眼においた授業計画を設定した。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> テキストに併せて講義内容に準拠した自作の「講義ナビ」を配布するので、事前にチェックすること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	口腔解剖、う蝕、歯周病概論	講義	
2	診査診断、治療(歯口清掃、歯科麻酔)	講義	
3	治療、口腔ケア、周術期等口腔機能管理	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 歯・口腔 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 試験（病態と診療Ⅳ 200 点満点中の 50 点）			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅳ (2) 皮膚疾患	<b>授業担当者</b> 野口 奈津子 山川 岳洋 能登 舞 佐藤 貴彦	<b>所属</b> 秋田大学大学院医学系研究科 医学部 皮膚科学・形成外科学	
<b>開講時期</b> : 中期～後期	<b>単位数</b> : 1 単位	<b>時間数</b> : 30 時間(皮膚疾患 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 感覚器系疾患(皮膚疾患)の病態・検査・治療について理解する。 1. 皮膚の構造と機能を理解する。 2. 皮膚疾患の病態・検査・治療について理解する。			
<b>授業の概要</b> 皮膚疾患の病態・検査・治療について理解し、皮膚の異常に気づくことができる看護師になってほしい。 また、皮膚科学に基づいたスキンケアができるようになってほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	総論: 皮膚の構造と機能、症状と病態生理	講義	野口
2	疾患の理解(1) 湿疹皮膚炎群～角化症(特にアトピー性皮膚炎と尋常性乾癬)	講義	山川
3	疾患の理解(2) 水疱症～物理・化学的皮膚障害(特に天疱瘡、類天疱瘡、熱傷、褥瘡)	講義	佐藤
4	疾患の理解(3) 感染症、母斑・母斑症、腫瘍	講義	能登
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 皮膚 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験および授業態度から総合的に評価する。(病態と診療Ⅳ200 点満点中の 50 点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅳ（3） 眼疾患		<b>授業担当者</b> 羽瀨 由紀子	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> : 中期～後期		<b>単位数</b> : 1 単位	<b>時間数</b> : 30 時間(眼疾患 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 眼疾患をもつ患者の特徴と看護の役割を学ぶ そのために必要な知識を身につける				
<b>授業の概要</b> 教科書に沿って眼科学一般を学び、看護について学ぶ				
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 膨大な内容を短時間の授業で扱うため、できれば教科書の予習をしてほしい				
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>	
1	総論、目の構造と機能	講義		
2	症状、検査、処置と治療と必要な看護	講義		
3	疾患の理解と看護①	講義		
4	疾患の理解と眼後②	講義		
	試験			
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 眼 医学書院				
<b>参考書・指定図書</b>				
<b>評価の方法</b> 試験（病態と診療Ⅳ 200 点満点中の 50 点）				

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 病態と診療Ⅳ（４） 耳鼻咽喉疾患	<b>授業担当者</b> 川崎 洋平	<b>所属</b> 秋田大学大学院医学系研究科 医学部 耳鼻咽喉科頭頸部外科学	
<b>開講時期</b> : 前期～中期	<b>単位数</b> : 1 単位	<b>時間数</b> : 30 時間(耳鼻咽喉疾患 8 時間)	
<b>授業の目的</b> 感覚器系疾患(耳鼻咽喉疾患)の病態・検査・治療について理解する。			
<b>授業の概要</b> 耳鼻咽喉領域の看護を行っていくうえで、日々進歩する診断、検査、治療に対する最新の知識を身につけておくことは必須である。そのため、機能と構造をしっかりと理解し、耳・鼻・咽喉各領域の機能面、器質面を含めた身体問題を理解してほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	耳鼻咽喉の構造と機能および耳鼻咽喉科の検査と解釈 耳鼻咽喉科の検査と解釈	講義	
2	咽頭・喉頭の疾患、食道・気管の疾患と音声・言語障害	講義	
3	食道・気管の疾患と音声・言語障害	講義	
4	耳に現れる症状と病態生理	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 耳鼻咽喉 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験・レポート 病態と診療Ⅳ200 点満点中の 50 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 公衆衛生学	授業担当者 鄭 松伊 山崎 貞一郎 岩倉 正浩 楊 謹鴻	所属 秋田大学大学院医学系研究科 衛生学・公衆衛生学講座  医学専攻社会環境医学系地域心 身医療学講座	
開講時期: 前期～中期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
<b>授業の目的</b> 公衆衛生の理念と概要を理解し、健康の保持・増進のために、地域社会の中でどのような責務を担ってゆく必要があるのか学び、医療従事者として何ができるのかを考える。			
<b>授業の概要</b> 1. 健康とは何かを説明できる。疾病予防から健康増進に至る理念について説明できる。 2. 諸外国の健康問題、各年代や性別ごとの日本人の健康問題について概説できる。 3. 健康の保持・増進のために必要な自然環境・社会資源を枚挙することができる。 4. 健康の保持・増進のための主な制度や法律、施策を挙げて、その意義を説明できる。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	公衆衛生をまなぶにあたって	講義	楊
2	公衆衛生のエッセンス	講義	楊
3	公衆衛生の活動対象	講義	楊
4	公衆衛生のしくみ	講義	鄭
5	集団の健康をとらえるための手法-疫学・保健統計①	講義	鄭
6	集団の健康をとらえるための手法-疫学・保健統計②	講義	岩倉
7	環境と健康	講義	山崎
8	感染症とその予防対策	講義	岩倉
9	国際保健、地域における公衆衛生の実践①公衆衛生看護	講義	鄭
10	地域における公衆衛生の実践②母子保健、成人保健	講義	山崎
11	地域における公衆衛生の実践③高齢者保健、精神保健	講義	岩倉
12	地域における公衆衛生の実践④歯科保健、障害者保健・難病保健	講義	山崎
13	学校と健康	講義	鄭
14	職場と健康	講義	岩倉
15	健康危機管理・災害保健	講義	山崎
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 公衆衛生 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 公衆衛生がみえる 2024-2025、第 5 版 メディックメディア(必要に応じて)			
<b>評価の方法</b> 筆記試験			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 社会福祉	<b>授業担当者</b> 伊藤 雅充 阿部 拓見 塩谷 行浩 本間 晃子 村越 伴子 相澤 ふみ 関谷 美紗子	<b>所属</b> 中通総合病院 医療相談室 中通リハビリテーション病院 医療福祉相談室	
<b>開講時期</b> :前期～中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間	
<b>授業の目的</b> 現代の生活問題を社会システムとの関連で把握し、社会福祉と医療・介護等の連携の重要性を理解する。			
<b>授業の概要</b> 社会福祉とは、現代社会における生活問題に対し、国民の生存権を保障するための施策である。医療問題を生活問題の重要な課題として把握し、医療を受ける権利を保障するために求められる視点を理解する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書と配布資料を用いて授業を行う。重要な事項は適宜アンダーラインを引くなど、集中して授業参加されることを期待する。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	現代社会と社会福祉・社会保障	講義	塩谷 行浩
2	社会福祉・社会保障とは何か	講義	塩谷 行浩
3	社会福祉・社会保障の動向	講義	伊藤 雅充
4	社会福祉・社会保障の歴史	講義	伊藤 雅充
5	社会福祉の実践	講義	伊藤 雅充
6	地域福祉、地域連携	講義	阿部 拓見
7	子ども・家庭と福祉	講義	村越 伴子
8	年金制度	講義	阿部 拓見
9	高齢者と福祉	講義	本間 晃子
10	生活保護	講義	関谷 美紗子
11	障害児・者と福祉、難病対策	講義	塩谷 行浩
12	医療保険制度	講義	相澤 ふみ
13	介護保険制度	講義	本間 晃子
14	雇用保険制度、労災保険制度	講義	塩谷 行浩
15	生活と福祉	講義	阿部 拓見
	試験	筆記試験	
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門基礎分野 健康支援と社会保障制度[3] 社会保障・社会福祉 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験(2～13の授業から各1問ずつ選択式問題を出題:60点、14～15の授業から正誤式問題を10問:40点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 関係法規	授業担当者 鈴木 淳子	所属 元 至誠会看護学校	
開講時期: 前期～中期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
<b>授業の目的</b> 看護に必要な法律について理解するとともに、医療人として理解しておきたい医療福祉に関する法律の基礎知識を身につける。			
<b>授業の概要</b> 看護師がその任務を果たすためには、専門的知識や技術を身につけるだけでなく、我が国の保健医療福祉に関する諸制度を理解し、看護はそこでどのような位置を占め、保健師・助産師・看護師はどのような役割を持っているかを認識する必要がある。看護に携わる者が、国民の健康を守り、与えられた職責を正しく遂行するため、関係法規の理解は欠くことのできないものである。 この授業では、看護に携わる者にとって最も重要な法規である保健師助産師看護師法をはじめ、医事・薬事・公衆衛生、環境衛生などの衛生法規と、看護業務に関連が深い社会保障に関する法規、労働関係法規などについて解説していく。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。提示された事前課題について学習して臨むこと。必要時資料は印刷して事前に準備すること。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	医療に関する法の概念	講義	
2	看護に関する法律	講義	
3	医療法	講義	
4	医療・福祉に関する資格	講義	
5・6	保健衛生法	講義	
7	感染症に関する法令	講義	
8	薬務法	講義	
9	社会保険法	講義	
10	福祉法	講義	
11	労働法	講義	
12	環境法	講義	
13	その他の法律	講義	
14・15	まとめ	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 看護関係法令 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床心理学	授業担当者 半田 温子	所属 元秋田大学 臨床心理相談室	
開講時期:前期	単位数:1単位	時間数:15時間	
<b>授業の目的</b> 臨床心理学の基礎理論および技法を基盤とした、対象理解と援助について考える。			
<b>授業の概要</b> テキストを中心に、臨床心理学の基礎概念を学ぶ。その中で事例を概観し、対象理解と援助について、臨床心理学的観点から考える。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 当科目は、1年次の「心理学」で学習した基礎心理学の知識および理解を前提として進めていく。そのため、必要に応じて各自復習しておくことが望ましい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	臨床心理学の扉を開くー臨床心理学とはー 心理援助の基礎を学ぶー発達・人格理論ー (1) 基礎理論について	講義	
2	心理援助の基礎を学ぶー発達・人格理論ー (2) 精神分析理論 分離-個体化理論	講義	
3	心理援助の基礎を学ぶー発達・人格理論ー (3) 対象関係論	講義	
4	対象を理解するー心理アセスメントー (1) 情報の収集と整理 発達検査 知能検査	講義	
5	対象を理解するー心理アセスメントー (2) 人格検査 心理検査の実際	講義	
6	心理援助の実際に分れるー事例に学ぶ問題の理解とかわりー	講義	
7	心理援助の方法を知るー心理療法ー (1) 心理療法の基本的態度 精神分析療法 遊戯療法	講義	
8	心理援助の方法を知るー心理療法ー (2) 芸術療法 自律訓練法 終章 「かかわる」ということ	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 川瀬正裕・松本真理子・松本英夫 「心とかかわる臨床心理ー基礎・実際・方法ー」 ナカニシヤ出版			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験、出席・参加状況により総合的に評価する			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> リハビリテーション論	<b>授業担当者</b> 小貫 渉 米谷 和真 佐藤 孝憲 吉田 智恵美	<b>所属</b> 中通りリハビリテーション病院 医局 作業療法部 理学療法部 言語療法部	
<b>開講時期</b> :前期～中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間	
<b>授業の目的</b> 社会復帰を目指す障害者に対する援助の方法を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 1. リハビリテーション医学について 2. 理学療法について 3. 作業療法について 4. 言語療法について			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	リハビリテーション医学 リハビリテーションとは(総論)	講義	小貫
2	障害の受容について	講義	小貫
3	リハビリテーションが必要な疾患について	講義	小貫
4	脳血管障害と高次機能障害①	講義	小貫
5	脳血管障害と高次機能障害②	講義	小貫
6	脳血管障害と高次機能障害③	講義	小貫
7	作業療法 生活行為と作業療 作業療法とは 生活行為とは	講義	米谷
8	ICFとリハビリテーション ICFとは リハビリテーションへの応用	講義	米谷
9	生活環境と作業療法 福祉用具・自助具 住宅改修	講義	米谷
10	理学療法 PTとは	講義	佐藤
11	事例別理学療法 運動療法について 呼吸理学療法 その他	講義	佐藤
12	装具療法・歩行補助具・歩行介助	演習	佐藤
13	言語療法 STとは 回復期リハビリテーションの失語症について	講義	吉田
14	回復期リハビリテーションの構音障害(dysarthria を中心に)	講義・実技	吉田
15	回復期リハビリテーションの摂食嚥下障害について	講義・実技	吉田
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 看護リフレクションⅡ	<b>授業担当者</b> 工藤 洋平 他 近江 薫 他	<b>所属</b> 中通高等看護学院 中通高等看護学院	
<b>開講時期</b> :前期～中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間	
<b>授業の目的</b> 臨地実習の場面を通して、看護実践状況の中で生じた、実践知を自覚し、リフレクティブサイクルに応じ、客観的に振り返る思考のプロセスを学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 看護におけるリフレクションは、日々の看護実践の中で行われる暗黙知や技を可視化・言語化するプロセスである。リフレクションを学ぶことは、看護実践の質を向上させ、看護専門職として成長し続けていくための有用なスキルである。本科目は、1年次に学んだスキルを活用し、臨地実習場면을リフレクションする。実習終了後に自らの経験を一定の方法を用いてリフレクションすることで、それまで気づかなかった看護の意味や価値を見出し、次の看護に繋げていく方法を身につける。また、実習での体験をケースレポートとしてまとめ、自分の行ったケアを論理的・客観的に振り返る力を身につけると共に、看護に対する自分の考えを述べられるようになって欲しい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 臨地実習場面のリフレクションでは、B5判のノートを使用します。各自準備してください。 より良い看護を提供するために、積極的に指導を受け、リフレクションを充実させましょう。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	看護リフレクションⅡとは	講義	工藤
2	臨床判断とコンセプト	講義	工藤
3	基礎看護学実習Ⅲの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
4	基礎看護学実習Ⅲの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
5	成人・老年看護学実習Ⅰの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
6	成人・老年看護学実習Ⅰの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
7	成人・老年看護学実習Ⅱの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
8	成人・老年看護学実習Ⅱの場面のリフレクション	個人・グループワーク	実習担当教員
9	ケースレポートガイダンス	講義	近江
10	ケースレポート作成	個別指導	全教員
11	ケースレポート作成	個別指導	全教員
12	ケースレポート作成	個別指導	全教員
13	ケースレポート発表会準備	個人ワーク	近江
14	ケースレポート発表会	学習交流	全教員
15	ケースレポート発表会	学習交流	全教員
<b>テキスト</b> 田村由美/池西悦子 著 看護の教育・実践に活かすリフレクションー豊かな看護を拓く鍵ー 南江堂 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 各実習場面でのワークシート提出及び評価表に基づいた評価(50点) ケースレポートループリック評価表で評価(50点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 地域・在宅看護概論	授業担当者 堀井 喜世子 高橋 令子	所属 中通高等看護学院 中通総合病院	
開講時期: 前期～中期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
<b>授業の目的</b> 地域・在宅で療養する人々とその家族の特徴を理解し、看護活動を展開するための基礎的知識を養う。			
<b>授業の概要</b> 地域・在宅看護の対象は地域で生活しているすべての人々とその家族である。ここでは、既習の地域で生活を営む人々についての学びをふまえて、年齢別、疾患別、症状別という枠組みを超えて、生活の場で療養している在宅看護の対象者の特性を知り、在宅における看護師の基本姿勢、倫理、安全管理等について学習する。在宅看護は保健医療の仕組みや制度等が深く関わっているため、これまでに学んでいる講義等と結びつけながら理解してほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 主に資料に沿って授業を行う。授業後、テキストの該当箇所を読み解くことで、学びを定着してほしい。また、既習の地域の理解、在宅ケアシステムの内容が随所に出てくる。事前学習として授業内容を確認しておくことをすすめる。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	地域・在宅看護とは	講義	堀井
2	地域・在宅看護の対象	講義	堀井
3	家族について	講義	堀井
4・5	地域・在宅看護に関わる制度について	講義	堀井
6・7	地域・在宅看護に関わる制度の活用	グループワーク 発表・講義	堀井
8	療養の場の移行に伴う看護	講義	高橋
9	多職種・多機関連携	講義	高橋
10・11	訪問看護とは	講義	堀井
12	訪問看護パンフレット作成	個人ワーク	堀井
13	訪問看護パンフレット発表	発表	堀井
14	地域・在宅看護における安全管理	講義	堀井
15	地域・在宅看護における災害対策	講義	堀井
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践			
<b>参考書・指定図書</b> 公衆衛生がみえる 2024-2025 第6版 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 70%(高橋 15% 堀井 55%)、課題レポート・参加態度 30%			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 在宅看護技術	授業担当者 堀井 喜世子 西方 展子	所属 中通高等看護学院 中通総合病院	
開講時期: 中期～後期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
<b>授業の目的</b> 基礎看護技術を応用し、在宅で療養する対象に必要とされる基本的な看護援助について学ぶ			
<b>授業の概要</b> 在宅看護は、地域で療養する人々が「望む生活」を維持するために、社会資源を用いながら生活の場において看護を提供し、「自立支援」していくことである。療養者と家族が「健康でその人らしい生活」が継続できるように、ここではこれまで学んできた看護の知識と技術を応用させた日常生活支援技術、臨床看護技術を応用した在宅医療技術を学び、在宅看護の実践に結び付ける。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 在宅看護技術は基礎看護技術の応用編である。既習の該当する基礎看護技術の振り返りをして授業に臨んでほしい。 演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	在宅における日常生活支援技術(食事)	講義	堀井
2	在宅における日常生活支援技術(排泄)	講義	堀井
3	在宅における日常生活支援技術(清潔・衣生活)	講義	堀井
4	在宅における日常生活支援技術(活動と休息)	講義	堀井
5	フィジカルアセスメント	演習	堀井
6・7	在宅での栄養管理 ー経管栄養法と在宅中心静脈栄養法ー	講義	堀井
8	膀胱留置カテーテル	講義	堀井
9	ストーマケア	講義	西方
10	褥瘡の予防とケア	講義	西方
11	在宅酸素療法	講義	堀井
12	在宅人工呼吸療法	講義	堀井
13・14 15	在宅における日常生活支援の実際 片麻痺体験、福祉用具体験、入浴介助	演習	堀井
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践			
<b>参考書・指定図書</b> 角田直枝編集 よくわかる在宅看護 学研			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 60%(西方 15% 堀井 45%)、課題レポート・参加態度 40%			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 対象に応じた在宅看護	授業担当者 堀井 喜世子	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 中期～後期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
<b>授業の目的</b> 在宅で健康障害を抱えた人々とその家族への看護展開の方法を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 療養者とその家族が望む「その人らしい生活」を実現するために、療養者とその家族の全体像を捉え、必要な看護を導き出す手法を学び、在宅看護における特徴的な対象に応じた看護展開について学習するとともに、演習を通して在宅看護の実際を考える機会としたい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 事例をもとに、看護過程や臨床判断のワークが授業の中心となる。個人で主体的に事前課題に取り組み、グループワークでは活発に意見交換できるように準備してほしい。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	在宅看護過程とは(療養者の理解と在宅看護のポイント) ・訪問看護の事例から学ぶ ・療養者の全体像を理解するーICF 思考ー	講義	
2	療養者の全体像を理解する(グループワーク)	講義・演習	
3	ICF 思考による情報整理・分析シート(発表)	講義	
4・5	関連図作成	演習	
6	脳卒中の療養者への在宅看護	講義	
7	認知症療養者への在宅看護	講義	
8	訪問看護師の臨床判断・臨床推論	講義	
9	がん終末期療養者への在宅看護	講義	
10	慢性疾患療養者への在宅看護(糖尿病)	講義	
11	難病療養者への在宅看護	講義	
12・13	訪問看護ロールプレイ準備(グループワーク)	演習	
14・15	訪問看護ロールプレイ(発表)	演習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の基盤 系統看護学講座 専門 地域・在宅看護の実践			
<b>参考書・指定図書</b> 公衆衛生がみえる 2024-2025 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 50%、課題レポート・グループワーク参加態度 50%			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 臨床推論	授業担当者 日野 由樹子	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 前期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
<b>授業の目的</b> 臨床での看護実践につながるアセスメント能力を高めることを目指して、臨床看護師が行う臨床判断プロセスとアセスメントに役立つ視点を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 臨床推論とは、看護師などの臨床家が判断するための思考過程をいう。模擬患者でシミュレーションを行い、臨床判断のプロセスに当てはめながら、適切な患者の健康状態を判断(看護診断)し、患者へ最適な看護を考える思考過程を学ぶ。 看護リフレクションⅡでコンセプトの理解を深め、臨床推論を学ぶことで基礎看護学実習Ⅲにつながるようにしたい。グループワークでは、看護の臨床判断の視点についても交流し、シミュレーションが行えるように考えていく。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 基礎看護学実習Ⅲの直前に短期間で行う授業です。事前準備・事前学習をして臨んでください。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	臨床推論とは/臨床判断のプロセス	講義・小テスト	
2～9	コンセプト①に関するシミュレーション演習	演習・グループワーク	
10～15	コンセプト②に関するシミュレーション演習	演習・グループワーク	
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 基礎看護学技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門 臨床看護総論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 看護がみえる vol.4 看護過程の展開 第1版 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 臨床推論の講義内で小テスト(20点)、シミュレーション学習の課題(80点)で評価			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 老年看護援助論Ⅰ	<b>授業担当者</b> 田安 和	<b>所属</b> 中通高等看護学院	
<b>開講時期</b> :前期～中期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間	
<b>授業の目的</b> 高齢者の心身の加齢変化により日常生活に与える影響を理解し、生活行動を支援する方法を学ぶ。また高齢者の健康障害の特徴と看護を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 高齢者は様々な健康障害、機能障害を引き起こしやすい。いかに健康を維持していくのか、生活機能の回復をいかにして図っていくのが、健康上の課題となる。そこで、高齢者の生活機能を整え、セルフケア能力を維持できるようなケアの方法を学ぶ。またその人らしさを尊重し健やかな老いを支えるケアを目指し、高齢者に合った看護援助をグループで検討し発表する演習を取り入れる。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 高齢者への看護は他教科との重複が多く、内容との関連を考えながら学習をすすめていきましょう。高齢者の身体的特徴を踏まえ、アセスメントや実践方法を考えていきます。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	高齢者の食を支える看護①	講義	
2	高齢者の食を支える看護②	講義	
3	高齢者の排泄を支える看護	講義	
4	高齢者の清潔・衣生活を支える看護	講義	
5	高齢者の活動と休息を支える看護①	講義	
6	高齢者の活動と休息を支える看護②	講義	
7	高齢者の歩行・移動を支える看護①	講義	
8	高齢者の歩行・移動を支える看護②	講義	
9	高齢者の呼吸・循環を支える看護	講義	
10	高齢者に特徴的な症状・疾患を支える看護	講義	
11	発表会に向けての準備① グループワーク	演習	
12	発表会に向けての準備② グループワーク	演習	
13	事例をアセスメントし看護援助を考え発表する①	演習	
14	事例をアセスメントし看護援助を考え発表する②	演習	
15	解説・まとめ	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> ブックライブラリー 老年看護技術 医学書院 写真でわかる高齢者ケア インターメディカ			
<b>評価の方法</b> レポート(30%) 筆記試験(70%)で評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 老年看護援助論Ⅱ	授業担当者 田安 和	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 高齢者の心身の加齢変化により起こりやすい疾患について理解し、受診時から入・退院までの経過に沿って必要となる看護支援の方法を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 高齢者は様々な健康障害、機能障害を引き起こしやすい。この单元では高齢者が健康に変調をきたし、医療機関への受診から入院そして退院に向けどのように看護を展開するのかケアの方法、そして事例を通して看護展開の実際を学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 高齢者への看護は他教科との重複が多く、内容との関連を考えながら学習をすすめていきましょう。高齢者看護の特徴、実践方法や課題を考えていきます。高齢者の持てる力は何かを見極め、よりよい生活を見据えた看護を考えていきましょう。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	高齢者に起こりやすい疾患の看護①	講義	
2	高齢者に起こりやすい疾患の看護②	講義	
3	治療を受ける高齢者の看護①	講義	
4	治療を受ける高齢者の看護②	講義	
5	治療を受ける高齢者の看護③	講義	
6	リハビリテーションを受ける高齢者の看護①	講義	
7	リハビリテーションを受ける高齢者の看護②	講義	
8	リハビリテーションを受ける高齢者の看護③	講義	
9	事例による看護過程の展開 (グループワーク)①	演習	
10	事例による看護過程の展開 (グループワーク)②	演習	
11	事例による看護過程の展開 (グループワーク)③	演習	
12	事例による看護過程の展開 (グループワーク)④	演習	
13	事例による看護過程の展開 (グループワーク)⑤	演習	
14	事例をアセスメントし看護援助を考え発表①	演習	
15	事例をアセスメントし看護援助を考え発表②	演習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> ブックライブラリー 老年看護過程 第4版 医学書院 ブックライブラリー 老年看護技術 第3版 医学書院			
<b>評価の方法</b> 課題レポート(30%)、演習レポート(20%)、筆記試験(50%)で評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 老年看護援助論Ⅲ	授業担当者 小田嶋 陽子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:後期	単位数:1単位	時間数:15時間	
<b>授業の目的</b> 加齢に伴い感覚機能低下をきたした高齢者の特徴を理解し、症状に応じたケアの方法と生活支援のための看護を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 加齢により口腔、皮膚や眼・耳・鼻等の感覚機能低下をきたすことは、生活する上で支障となることが多い。また情報量が少ないことは危険の回避ができにくい。加齢による機能低下の状態を理解し、安全に、また安心して生活できるよう、ケアの方法を学ぶ。主要疾患については、その誘因・特徴を学び、症状に応じた看護について学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> ラーニングポータルにアップされている資料を準備し臨むこと。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	Introduction 口腔症状に対する看護、義歯のケア、味覚障害のある患者の看護	講義	
2	耳鼻咽喉領域の患者の特徴と看護、検査に伴う看護	講義	
3	耳鼻咽喉領域の症状と疾患に対する看護 (難聴・メニエール病・アレルギー・慢性副鼻腔炎)	講義	
4	皮膚の機能と症状の特徴	講義	
5	皮膚の疾患を持つ患者の看護 (アトピー性皮膚炎・熱傷・带状疱疹・疥癬) 高齢者のスキンケア	講義	
6	眼疾患患者の特徴と症状(眼痛)に対する看護	講義	
7	眼疾患患者の検査・治療を受ける患者の看護 (眼底、眼圧、白内障手術等)	講義	
8	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾病論 医学書院 系統看護学講座 専門 皮膚 医学書院 系統看護学講座 専門 眼 医学書院 系統看護学講座 専門 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門 歯・口腔 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験:100点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 認知症看護	授業担当者 仲野谷 美貴子	所属 中通総合病院	
開講時期: 前期～中期	単位数: 1 単位	時間数: 15 時間	
<b>授業の目的</b> 認知症・せん妄の病態および基礎知識を学び、対象に応じた看護ができる能力を養う			
<b>授業の概要</b> 2040年には、認知症患者と軽度認知症の人を合わせると、3人に1人が認知機能低下の症状を有するといわれている。急性期病院においても認知症症状を有する高齢者の入院の割合が高くなっている。認知症高齢者は入院後、せん妄の発症リスクが高く、行動・心理症状も悪化しやすい。また、転倒・転落などの医療事故を重視し身体拘束を実施することで、様々な弊害が生じ入院が長期化する傾向にある。 認知症高齢者が住み慣れた地域へ戻るためには、急性期医療を提供すると同時に、適切な認知症ケアを提供していくことが課題となる。そのため、認知症の病態やせん妄を理解するとともに、認知症高齢者を1人の生活者として捉える視点を持ち、個人の尊厳を保つ関わり方を学んでほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書などに目を通し、学習内容に関してイメージできていることが望ましい。そして、社会人基礎力の中にある「チームで働く力」を特に意識して受講に臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	認知症の疾患と特徴、治療について	講義	
2	認知症の看護とせん妄について	講義	
3	身体拘束の体験学習	演習	
4	認知症高齢者との関わり方	動画視聴	
5	認知症高齢者との関わり方	ロールプレイ	
6	認知症の予防、家族への支援とサポートシステム	講義	
7	認知症高齢者の意思決定支援	講義	
8	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 老年看護学 医学書院 系統看護学講座 専門 老年看護 病態・疾患論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 急性病院で治療を受ける認知症高齢者のケア 日本看護協会出版社 認知症ケアの倫理 ワールドプランニング			
<b>評価の方法</b> 筆記試験、授業態度およびロールプレイの取り組み状況と内容から総合的に評価する			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 小児看護学概論	授業担当者 秋山 祥子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 子どもを一人の権利を有する存在として捉え、多様化する地域社会の中で、子どもと家族が健やかに成長発達をしていくための支援について学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 子どもの看護では「子どもを知る」ことがとても大事です。しかし、少子化や子どもの生活の変化から、日常的に子どもと接する機会は少なく、その特徴や日常生活を具体的にイメージするのは難しい現状にあります。この科目では「子ども」が成長発達していく存在であることを捉えます。また、子どもだけではなくその家族も大切な存在であり、看護の対象であることを学びます。さらに、現代社会の諸問題や家庭環境が子ども・家族に及ぼす影響を知り、その子らしく健やかに成長発達していくための権利や制度および支援を学びます。 「子ども各期の成長発達の特徴と支援」をテーマに個人およびグループでのワークに取組みます。プレゼンテーションを通し、各期の子どもを多角的にイメージできるようになることを目指します。この取組の成果が、続く小児看護援助論Ⅰ・Ⅱで活用されることを期待します。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 5・6・7・10・12・14・15 回目は、子ども各期の成長発達と支援をテーマにワークをする。※詳細は授業の中でガイダンスする。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	小児看護の目指すところ	講義	
2	子どもと家族(諸統計・行政施策など)	講義	
3	子どもの人権と看護	講義	
4	子どもの成長発達の原則 発育・発達の評価	講義	
5	子ども各期の成長発達と支援	個人ワーク	
6	子ども各期の成長発達と支援	個人ワーク	
7	子ども各期の成長発達と支援	個人ワーク	
8	子どもの栄養	講義	
9	子どもの栄養	講義	
10	子ども各期の成長発達と支援	個人ワーク	
11	予防接種 学校保健	講義	
12	子ども各期の成長発達と支援	個人ワーク	
13	子どもと家族を取り巻く諸問題(児童虐待・いじめ・不登校等)	講義	
14	子ども各期の成長発達と支援	グループワーク	
15	子ども各期の成長発達と支援	グループワーク	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 随時、授業に関係があるものを紹介する。			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 60% グループワーク(ルーブリックでの評価)40%			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 小児疾患の病態と診療	授業担当者 平山 雅士	所属 中通総合病院 医局	
開講時期: 前期～中期	単位数: 1 単位	時間数: 15 時間	
<b>授業の目的</b> 心身の成長・発達の過程や、その異常と種々の疾患を学び、小児の特性に配慮した各疾患の具体的な看護につなげる。			
<b>授業の概要</b> 小児は成長・発達の時期であり、病態や疾患が成人とは異なる場合が多い。 小児期に多い疾患を取り上げ、考える。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	成長発達: 小児の特性としての成長発達について 小児救急: 火傷、溺水、熱中症、誤嚥、誤飲などについて	講義	
2	出生前診断: 遺伝、遺伝子病、胎児病などについて 新生児疾患: 病的新生児、低出生体重児について	講義	
3	代謝・内分泌疾患: 小児期にみられる内分泌疾患(クレチン病・成長ホルモン分泌不全)について	講義	
4	免疫: 免疫の現象と先天性免疫不全症などについて 感染症: 小児期に多いウイルス性・細菌性感染症などについて	講義	
5	呼吸器疾患: 急性上気道炎や肺炎を中心に 循環器疾患: 先天性心疾患を中心に、川崎病、起立性調節障害などについて	講義	
6	血液疾患: 血液の成り立ち、貧血など血液疾患を中心に 腫瘍疾患: 小児に多い腫瘍性疾患、白血病などを中心に	講義	
7	消化器疾患: 小児に多い消化器疾患(肥厚性幽門狭窄症・腸重積症など)を中心に 泌尿器疾患: 腎・尿路の働きとその疾患について	講義	
8	神経疾患: 先天性の神経疾患について 精神疾患: 精神の発達とその障害について	講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 小児看護援助論Ⅰ	<b>授業担当者</b> 近江 薫 佐々木正吾 他	<b>所属</b> 中通高等看護学院 県立医療療育センター	
<b>開講時期</b> : 中期	<b>単位数</b> : 1 単位	<b>時間数</b> : 30 時間	
<b>授業の目的</b> 健康上の問題を持つ子どもと家族が、生活・療養するための看護実践に必要な知識を身につける。			
<b>授業の概要</b> 健康上の問題は子どもの成長発達に大きな影響を与えます。小児看護学概論で学習した知識を基に、どのような影響を及ぼすのかを捉え、それらを最小限にするための関わりを学習します。 さらに、治療・処置は子どもにとっても健康回復のために必要なことです。しかし、大人では難く行われることであっても、子どもの場合はその子の成長発達に合わせた関わりが必要になります。子どもに行われる看護技術についていくつか取り上げ、基本技術の根拠と子どもの権利擁護や発達を踏まえた援助の在り方を学びます。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等をあらかじめ見て、学習する内容に関してイメージできていることが望ましい。 資料は必要時印刷して事前に準備すること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	病気・障害をもつ子どもと家族の看護	講義	近江 薫
2	入院中の子どもと家族の看護	講義	近江 薫
3	外来における子どもと家族の看護	講義	佐々木直子
4	検査・処置を受ける子どもと家族の看護	講義	近江 薫
5	在宅療養中の子どもと家族の看護	講義	佐藤夏美
6	慢性期にある子どもと家族の看護	講義	近江 薫
7	急性期にある子どもと家族の看護 子どもの救急救命処置	講義	近江 薫
8	周手術期にある子どもと家族の看護	講義	近江 薫
9	終末期にある子どもと家族の看護	講義	佐々木正吾
10	子どもとのコミュニケーション	講義	近江 薫
11・12 13・14 15	小児看護技術 グループワーク ロールプレイ (環境調整・日常生活援助技術・症状生体機能の管理技術等)	グループワーク ロールプレイ	近江 薫
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> ナーシンググラフィカ 小児看護学① 小児の発達と看護 メディカ出版 ナーシンググラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版 山元恵子 写真でわかる小児看護技術～小児看護に必要な臨床技術を中心に～ インターメディカ			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 70 点 グループワーク・課題の提出物 30 点 合計 100 点で評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 小児看護援助論Ⅱ	授業担当者 秋山 祥子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:中期～後期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 健康障害のある子どもと家族が生活・療養するための看護実践に必要な知識・技術を身につける。			
<b>授業の概要</b> 子どもは身体機能が発達の上にあることから大人よりも症状が出やすく、さらに重症化しやすいという特徴があります。子どもの解剖生理学的特徴を確認しながら、症状別看護を学習します。 子どもに看護を提供するうえで、その子の成長発達を捉えることは重要なポイントです。また、子どもの状態を一喜一憂しながら見守る家族の存在も忘れることはできません。ケアモデルを通して成長発達を踏まえたアセスメント力を養うとともに、家族も視野に入れた問題解決能力を習得します。 また、子どもは認知理解力・対処能力の未熟さや生活体験の少なさから、療養生活での体験が心の傷として残る可能性もあります。子どもの持つ力を引き出す関わり関わり方を、プレパレーションの演習を通し考えます。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	子どもによくみられる症状と看護① 発熱 けいれん	講義	
2	子どもによくみられる症状と看護② 呼吸困難 酸素療法	講義	
3	子どもによくみられる症状と看護③ 下痢 嘔吐 脱水 輸液療法	講義	
4	子どもによくみられる症状と看護④ 発疹 出血	講義	
5	子どもによくみられる症状と看護⑤ アレルギー症状	講義	
6	子どもによくみられる症状と看護⑥ 痛み	講義	
7	ケアモデルによる看護過程	演習	
8	ケアモデルによる看護過程	演習	
9	ケアモデルによる看護過程	演習	
10	ケアモデルによる看護過程	演習	
11	ケアモデルによる看護過程	演習	
12	ケアモデルによる看護過程 交流会	演習	
13	検査や治療・処置を受ける子どもへのプレパレーション	講義・演習	
14	検査や治療・処置を受ける子どもへのプレパレーション	演習	
15	検査や治療・処置を受ける子どもへのプレパレーション 交流会	演習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 小児看護学概論 小児臨床看護総論 医学書院 系統看護学講座 専門 小児臨床看護各論 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故予防からみた小児看護技術 第3版 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 筒井真優美 小児看護学 ～子どもと家族の示す行動への判断とケア～ 日総研 ブックライブラリー 発達段階からみた 小児看護過程＋病態関連図 第4版 医学書院			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 50%・看護過程演習 30%・プレパレーション演習 20% 合計 100 点で評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 母性看護学概論	授業担当者 大塚 紀子	所属 中通高等看護学院	
開講時期： 前期～中期	単位数： 1 単位	時間数： 30 時間	
<b>授業の目的</b> 母性に関する概念及び母性看護の対象である母親と子ども及びその家族の特徴を理解し、看護活動を展開するための基礎的知識を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 母性看護の対象や母性とは何かを理解し、その特徴を学び、女性の一生を通じた健康の保持・増進を目指した看護の重要性を感じてほしい。また、母性にかかわる統計と政策、母性を取り巻く社会の現状および課題について学ぶ。授業に際しては、一部 TBL（チーム基盤型学習）とプロジェクト学習を取り入れ進行する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> TBL に関しては、事前課題を行って臨み、チームで討議しながら、主体的に学ぶこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	母性看護の基盤となる概念	講義	
2	セクシャリティ・リプロダクティブヘルス/ライツ	TBL	
3	母性看護のあり方と倫理	講義・ワーク	
4	母性看護にかかわる指標と推移	TBL	
5	プロジェクト学習ガイダンス・R10で対象を描こう！	プロジェクト学習	
6	母性看護にかかわる法律と施策	TBL	
7	女性のライフサイクルにおける形態機能の変化	TBL	
8	ライフサイクルにおける思春期の健康と看護・性感染症・中絶	TBL	
9	ライフサイクルにおける更年期の健康と看護	TBL	
10	家族計画と受胎調節(TBL をベースとしたグループワーク)	グループワーク	
11	ドメスティック・バイオレンスに関する法律と支援	講義	
12	児童虐待防止に関する法律と支援	講義	
13	少子化バイバイ、さあ、秋田県のどの地域でも子どもを幸せに育てよう！プロジェクト	プロジェクト学習	
14	プロジェクト学習発表会	プロジェクト学習	
15	プロジェクト学習発表会	プロジェクト学習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 母性看護学概論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 公衆衛生がみえる 2024-2025 第6版 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 筆記試験 40%, TBL50%(チーム得点+ピア評価 30% 個人得点 20%) プロジェクト学習 10 点			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

## プロジェクト学習シラバス

科目名(副題)	母性看護学概論 秋田県、少子化改善プロジェクト！～地域で子どもを幸せに育てるために～
主講師 (ファシリテータ・協力者)	大塚紀子（スーパーアドバイザー：鈴木敏恵先生） （齊藤豊子／中川郁子）
受講対象	2年生
学習概要	<p>&lt;背景&gt;</p> <p>現在の社会は、少子高齢化社会が進行している。また、コロナ禍において、少子化は一層進み、子育て世代もステイホームが続き、母子密着型の子育てになり、地域の社会資源も活用しづらい状況にある。さらに、経済的にも不安定になった子育て世代もいる。秋田県は、2023年の高齢化率は、39.3%となっており、全国1位である。少子化についても出生数は3907人、出生率は4.0で過去最少を更新し、少子化は進んでいる。</p> <p>その背景として、未婚率が高い、また、子育て世代の人口が少なく、都市に流出している。子育て世代が産む子どもの数が少ないことが考えられる。結婚要因には、地域の経済・雇用環境や保育・子育てサポートが影響し、第2子要因には、地域の経済・雇用環境が明らかになっている。</p> <p>秋田県「少子化要因調査・分析事業」報告書（平成31年3月）「あきたの結婚・子育て応援情報Webサイト いっしょにねっと」より。</p> <p>&lt;プロジェクト学習の展開&gt;</p> <p>母性を初めて学ぶ2年生が、以下のようなプロジェクト学習を展開する。</p> <p>市町村には様々な子育て支援に有効な施設やサポートがあるが、「子育て世代」は十分に知らないもしくは、利用しにくい状況がある。また、夫婦の望む子どもの数と実際の子どもの数に違いがあり、子育てしにくいのでは・・・と受けとめ、望む子供の数より少ない現状もある、この現状を踏まえ、次のようなビジョンとゴールの元に、プロジェクト学習を実施していくものである。</p> <p>&lt;少子化バイバイ、さあ！秋田県のどの地域でも子どもを幸せに育てよう！プロジェクト&gt;</p> <p>将来親になる可能性がある自分（看護学生）、その自分の地域の少子化対策や社会資源の現状を調査し、事例の子育て世帯に必要な社会資源を使い、安心して子産み子育てできる環境を考える。少子化を一刻も早く改善させるべく、子育て世代が活用できる地域の母子保健サービスを提案します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* ビジョン（願い）：秋田県に暮らす「子育て世代」をサポートしたい</li> <li>* ゴール（具体的な目標）：秋田県の少子化を改善させる地域の母子保健サービスを提案します！</li> </ul> <p>&lt;社会的意義&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>* 地域から若い世代が流出することを低減できる</li> <li>* 働きながら子育てする人たちに貢献できる</li> <li>* 少子化の要因の一つとも言える「地域の子育て環境の現状」を明確にすることで今後の環境改善や行政の方向性などに貢献できる</li> </ul>
キーワード	子育て、支援、地域、プロジェクト学習

身につく力	専門知 <input type="checkbox"/> 国の少子化対策の知識（現状と方向性） <input type="checkbox"/> 地域（市町村）の少子化対策 <input type="checkbox"/> 少子化対策に関連する法律の知識 <input type="checkbox"/> 子育て世帯の公的支援のニーズ <input type="checkbox"/> 子育ての世帯の現状把握 <input type="checkbox"/> 子育て環境の変化	普遍知 <input type="checkbox"/> 課題発見力 <input type="checkbox"/> チームで1つの事を成し遂げる体験 <input type="checkbox"/> 目標に向かう力 <input type="checkbox"/> プレゼンテーション力 <input type="checkbox"/> 目の前の現実から正確な情報を獲得する力 <input type="checkbox"/> データを読み解く力
学習アウトカム	自分の住む地域の少子化対策の社会資源を知り、必要とされる支援を考えられる	
評価方法	ポートフォリオ評価（成果や成長のプロセス） 評価材料：元ポートフォリオ、凝縮ポートフォリオ、プレゼンテーション、他者評価	
実施月日 4月下旬～ 6月上旬	4～5月 <input type="checkbox"/> 準備 <input type="checkbox"/> ビジョンゴール <input type="checkbox"/> 計画 <input type="checkbox"/> 情報・解決策 <input type="checkbox"/> 制作 <input type="checkbox"/> プレゼン <input type="checkbox"/> 再構築 <input type="checkbox"/> 成長 <input type="checkbox"/> 確認	5～6月 7～9月
講義室・場所	教室2または図書室	
展開内容	講義	
	4月 シラバスによりプロジェクト内容の説明	
	2回目（5） 事例紹介、ゴールシート・ポートフォリオ作成 時間外 コーチング	
	3回目（13） チームで凝縮ポートフォリオ作成（eポートフォリオ） 時間外 プレゼン準備	
	4回目（14・15） 凝縮ポートフォリオを用いて発表会	
プロジェクト学習 eラーニング	<a href="http://www.mm-miraikyokuiku-onlinecourse.com/">http://www.mm-miraikyokuiku-onlinecourse.com/</a>	
テキスト・参考図書	ナーシンググラフィカ 母性看護学① 概論・リプロダクティブヘルスと看護 メディカ出版	
履修要件	プロジェクト学習参加	
他講義との関連	家族論 社会学 公衆衛生学 社会福祉 関係法規 小児看護学概論 地域・在宅看護論 周産期の診療 妊産婦の援助論 母と子の援助論	
受講生へのメッセージ	自分たちも将来地域で、子どもを産み育てる可能性があります。現在の社会の少子化対策とニード、自分たちが同様の立場になったら将来必要と考える対策について、想像を膨らませながら考えてほしい。自分の住む地域秋田の将来を担う皆さんが、安心して子どもを産み育てる環境や支援を考えてほしい。	

©2016 シンクタンク未来教育ビジョン 鈴木敏恵 All Rights Reserved.

一切の無断転載・翻訳等を禁ず。教育機関で使用される場合は、必ず出典『AI時代の教育と評価 アクティブラーニングからアクティブシンキングへ』を明記してください。

<b>科目名</b> 周産期の診療	<b>授業担当者</b> 小西 祥朝	<b>所属</b> 中通総合病院 医局	
<b>開講時期</b> : 中期	<b>単位数</b> : 1 単位	<b>時間数</b> : 15 時間	
<b>授業の目的</b> 妊娠・分娩・産褥の生理学的な経過と診断・検査と、起こりやすい異常について理解し、健康を回復させるための方法を学ぶ。さらに新生児の異常について学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 女性は産む性・育む性としての生殖機能を持っている。単に疾患別に捉えるのではなく、産む性である女性の健康と権利の側面からも考えられるようにしたい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
	正常妊娠・正常分娩		
1	妊娠の成立と経過	講義	
2	正常分娩と産褥期	講義	
3	正常新生児	講義	
	異常妊娠・異常分娩		
4	ハイリスク妊娠、合併症妊娠	講義	
5	妊娠期の感染症	講義	
6	妊娠期の異常	講義	
7	分娩の異常、産科手術	講義	
8	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 母性看護学各論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目 妊産婦の援助論	授業担当者 中川 郁子	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 中期～後期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
<b>授業の目的</b> 妊娠・分娩期の身体的・心理・社会的変化、胎児の成長について理解する。また、新しい家族の誕生期にある人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識と技術について理解する。			
<b>授業の概要</b> 周産期にある女性の身体的・精神的・社会的側面を理解すると共に、各期が正常に経過するために必要な援助、よりよい出産体験への援助の重要性、妊娠各期の対象のセルフケア能力を高めるための援助方法について学習する。また、ハイリスク状態にある人々を理解し、その看護について学習する。 授業形態としては、一部に協同学習(TBL)を取り入れ授業を進行する。技術演習を通して、妊産婦の看護を実践するために必要な技術の実際を学ぶことで、根拠に基づいた援助技術を身につける。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書等を予め確認し、授業内容に関してイメージできていることが望ましい。提示された事前課題について学習し授業に臨むこと。必要時資料は印刷し、準備すること。演習においては身だしなみを整え臨むこと。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	リプロダクティブヘルスケア	講義	
2	妊娠期の身体的特性	講義	
3	妊娠と胎児のアセスメント、出産を控えた妊婦と家族の心理と看護	講義	
4	妊婦健康診査時の看護技術	TBL	
5	妊娠と不快症状、妊婦の日常生活とセルフケア	TBL	
6	親になるための準備教育	講義	
7	ハイリスク状態にある妊婦、胎児の看護	講義	
8	分娩の経過と胎児の健康状態 ～産婦と胎児のアセスメント～	TBL	
9・10	分娩の経過と看護 ～産婦のニーズ、産婦と家族の心理～	講義	
11・12	ハイリスク状態にある産婦および胎児の看護	講義	
13	ペリネイタルロスを経験した産婦や家族の看護(レポート)	講義	
14・15	妊婦体験と妊婦健康診査の実際、産痛緩和、胎盤計測 (レポート)	演習	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門 母性看護学各論 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 病気がみえる vol.10 産科 第4版 メディックメディア			
<b>評価の方法</b> 筆記試験、TBL、課題レポートで総合的に評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 母と子の援助論	授業担当者 齊藤 豊子	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 中期～後期	単位数: 1 単位	時間数: 30 時間	
<b>授業の目的</b> <p>褥婦・新生児の特徴を理解し、新しい家族の誕生期にある人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的知識と技術について理解する。</p>			
<b>授業の概要</b> <p>シミュレーション課題に取り組み、褥婦の退行性・進行性変化、精神・社会的側面の理解と必要な看護およびセルフケアについて学習する。また、新生児が胎外生活へ適応していく過程を理解し、生理的変化や適応に向けた援助について学習する。さらに、異常をもつ褥婦・新生児の理解およびその看護について学習する。協同学習を取り入れ授業を進行するため、主体的に参加してほしい。</p> <p>母性看護を実践するために必要な技術(看護過程の展開方法、保健指導技術、沐浴、新生児の諸計測など)の演習によって、根拠に基づいた援助技術を身につける。</p>			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> <p>学習する内容を教科書等で事前に確認し、イメージできていることが望ましい。提示された事前課題は印刷して取り組み、授業に臨むこと。教授された技術は資料等で基本動作を確認し演習に臨むこと。必要時資料は印刷して事前に準備すること。演習においては身だしなみを整え臨むこと。</p>			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	産褥経過と看護	講義	
2	産褥期の日常生活と看護	講義	
3	産褥期の看護技術	講義	
4	ハイリスク状態にある褥婦の看護(帝王切開術後を含む)	講義	
5	出生直後の看護	講義	
6	早期新生児期にある新生児の看護	講義	
7	ハイリスク状態にある新生児の看護	講義	
8・9	沐浴、新生児身体計測、新生児バイタルサイン測定、育児体験	演習	
10・11 12	紙面事例による看護過程	演習	
13	看護過程交流会	演習	
14・15	褥婦に対する保健指導/ロールプレイ	演習	
	試験		
<b>テキスト</b> <p>系統看護学講座 専門 母性看護学概論 医学書院  系統看護学講座 専門 母性看護学各論 医学書院  ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた母性看護技術 医学書院  ブックライブラリー ウエルネスからみた母性看護過程 医学書院</p>			
<b>参考書・指定図書</b> <p>病気が見える vol.10 産科 第4版 メディックメディア</p>			
<b>評価の方法</b> <p>筆記試験及び課題の提出とルーブリック評価表(看護過程・保健指導)に基づき評価する  (100点満点中、筆記試験およびレポート課題 60点、看護過程 30点、保健指導 10点)</p>			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 精神看護学概論	<b>授業担当者</b> 伊藤 智幸 渡部 暢子	<b>所属</b> 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 中通高等看護学院	
<b>開講時期</b> :前期	<b>単位数</b> :1単位	<b>時間数</b> :30時間	
<b>授業の目的</b> 精神の発達と健康における諸問題を理解し、精神看護の意義と役割を学ぶ。			
<b>授業の概要</b> 精神の健康は環境の影響を受けやすい。この授業では、すべての人々の精神の発達と環境に対する精神の反応を学ぶ。また、精神障害者を取り巻く社会の変化と制度を知ることで、精神看護の意義と役割を学習する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 進行・内容はテキスト通りではないので、テキストは授業の補助として使用する。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	なぜ精神看護学を学ぶのか(導入)	講義・ワーク	伊藤
2	精神保健の考え方・精神の健康とは	講義	伊藤
3	精神保健の考え方・精神障害という考え方	講義	伊藤
4	心のはたらきと人格の形成・心のはたらき	講義	伊藤
5	心のはたらきと人格の形成・人格とは	講義	伊藤
6	関係の中の人間・システムとしての人間関係	講義	渡部
7	人間と集団	講義	渡部
8	テスト①*7回目までの範囲 各発達段階であらわれやすい精神障害、発達課題	テスト 講義	渡部
9	精神医療の歴史と看護	講義	伊藤
10	精神障害と法制度	講義	伊藤
11	おもな精神保健医療福祉対策とその動向	講義	伊藤
12	地域におけるケアと支援	講義	伊藤
13	医療の場におけるメンタルヘルスと看護	講義	伊藤
14	感情労働と看護師のメンタルヘルス	講義	伊藤
15	回復支援・リハビリ	講義	渡部
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 精神看護の基礎 医学書院 系統看護学講座 専門 精神看護の展開 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 授業内で1回と終了後に1回、計2回の筆記試験を行い、その合計点を100点満点とする。 提出物の遅滞・未提出は減点とする。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 精神疾患の病態と診療	<b>授業担当者</b> 沓澤 理 菅原 美紀	<b>所属</b> 中通総合病院 医局 中通総合病院 心理療法室	
<b>開講時期</b> : 前期～中期	<b>単位数</b> : 1 単位	<b>時間数</b> : 30 時間	
<b>授業の目的</b> 精神疾患について理解し、看護援助のあり方を理解する。			
<b>授業の概要</b> 1. 精神疾患の診断と治療方法について理解し、看護援助を展開できる能力を養う。 2. 精神症状のある患者の状態を評価し、看護援助を計画的に施行する能力を養う。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> あらかじめ学習する内容についてイメージしておくことでより理解が深まるように、教科書等に目を通しておきましょう。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	精神症状の考え方 精神症状(1): 思考の障害、自我意識の障害	講義	沓澤
2	精神症状(2): 感情の障害、意欲・行動の障害、知覚の障害	講義	沓澤
3	精神症状(3): 意識の障害、知能の障害、記憶の障害、精神状態像 神経症状(巣症状)	講義	沓澤
4	神経学的補助検査法 精神疾患の治療(1): 薬物療法①	講義	沓澤
5	精神疾患の治療(2): 薬物療法② 電気けいれん療法	講義	沓澤
6	精神疾患の治療(3): 精神療法、行動療法、集団精神療法、家族療法社会療法	講義	沓澤
7	心理検査	講義	菅原
8	神経症性障害、ストレス関連障害および身体表現性障害	講義	菅原
9	パーソナリティ障害、心身症、知的能力障害/知的発達症	講義	菅原
10	統合失調症	講義	沓澤
11	気分障害(双極性および関連症群、抑うつ症群)	講義	沓澤
12	摂食障害、睡眠障害、てんかん	講義	沓澤
13	器質性精神障害(認知症、症状精神病)	講義	沓澤
14	精神作用物質使用による精神および行動の障害	講義	沓澤
15	発達障害	講義	沓澤
	試験	講義	沓澤
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門分野 精神看護学〔1〕 精神看護の基礎 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 精神看護援助論Ⅰ	<b>授業担当者</b> 藤原 美加子 高階 康子	<b>所属</b> 医療法人回生会秋田回生会病院 医療法人回生会秋田回生会病院	
<b>開講時期</b> :前期～後期	<b>単位数</b> :1 単位	<b>時間数</b> :30 時間	
<b>授業の目的</b> 精神障がい者および精神疾患を有する者を対象にした看護援助について理解する。また看護の対象者を全人的に理解し、根拠に基づいた知識と技術で看護実践できる。			
<b>授業の概要</b> 精神障がい者および精神疾患を有する者を対象にした看護援助について学修する。精神の健康障害をもつ対象とその家族を理解し、精神科看護について有用な理論や概念を活用しながら、精神疾患を有することから生じる生活上の困難や自立支援のための看護援助について学修する。また、精神障がい者を取り巻く環境や処遇を理解し、自立支援のための看護援助について学修する。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 教科書をあらかじめ見て授業内容をイメージする事が望ましい。授業は講義にて進行する。自己の疑問や意見を積極的に表出すること。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	ケアの人間関係①	講義	藤原
2	ケアの人間関係②	講義	藤原
3	回復を支援する	講義	藤原
4	地域におけるケアと支援①	講義	藤原
5	地域におけるケアと支援②	講義	藤原
6	入院治療の意味①	講義	藤原
7	入院治療の意味②	講義	藤原
8	身体をケアする①	講義	藤原
9	身体をケアする②	講義	藤原
10	安全をまもる①	講義	高階
11	安全をまもる②	講義	高階
12	医療の場におけるメンタルヘルスと看護①	講義	高階
13	医療の場におけるメンタルヘルスと看護②	講義	高階
14	災害時のメンタルヘルスと看護①	講義	高階
15	災害時のメンタルヘルスと看護②	講義	高階
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 精神看護学2 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b>			
<b>評価の方法</b> 筆記試験			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 精神看護援助論Ⅱ	授業担当者 渡部 暢子	所属 中通高等看護学院	
開講時期: 中期～後期	単位数: 1 単位	時間数: 15 時間	
<b>授業の目的</b> 精神看護実践の基本となるコミュニケーション技法について考察し、精神科における看護アセスメントの仕方やレクリエーションの意義について学ぶ。			
<b>授業の概要</b> これまで学んできた精神看護学を基盤に、看護実践について学ぶ場としたい。そこで、精神看護学実習で活用することを前提に、看護アセスメントの仕方、プロセスレコード記載の演習を行う。また、治療的レクリエーションの意義を学び、そこで果たすべき看護の役割を学ぶ。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 精神看護学実習を前提とした演習やワークが中心の内容となる。より主体的に課題に取り組んでほしい。			
授業回数	学習内容	方法	備考
1	プロセスレコード意義	講義	
2	ロールプレイからプロセスレコードを記載	演習	
3	プロセスレコードを用いてグループでカンファレンス	グループワーク	
4	精神科における看護アセスメントについて	講義	
5	事例ペーパーシミュレーション	個人ワーク	
6	患者紹介プレゼンテーション①	グループワーク	
7	精神科におけるリハビリテーション ・ レクリエーションの意義	講義	
8	患者紹介プレゼンテーション②	グループワーク	
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 精神看護の展開 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 系統看護学講座 専門 精神看護の基礎 医学書院			
<b>評価の方法</b> 演習の提出物、授業態度・出席状況などを統合して評価する。			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 看護研究方法論	授業担当者 中川 郁子	所属 中通高等看護学院	
開講時期:前期～中期	単位数:1 単位	時間数:30 時間	
<b>授業の目的</b> 看護における研究の意義を理解し、研究に取り組むための基礎知識を身につける。			
<b>授業の概要</b> 研究のプロセスに沿い、何をどのように計画することで研究可能となるのか、論文をどのようにしてまとめるかを学ぶ。特に、研究や学習を進める上で欠かすことのできない文献検索の方法や研究計画書の作成、統計的なデータ分析の方法を、ワークを通して学ぶ。文献クリティークの方法と実際についても学び、看護リフレクションⅡで取り組むケースレポート作成に活かしていくことになる。授業全般を通して、「看護学では何のために研究するのか」を考えながら学習してほしい。			
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 聞きなれない研究用語がたくさん出てくる。単元終了時に振り返りシートを配布するので、しっかり復習をして欲しい。			
<b>授業回数</b>	<b>学習内容</b>	<b>方法</b>	<b>備考</b>
1	看護研究とは何か 研究の概観 看護研究のはじめ方ーリサーチクエスチョンをたてる	講義・個人ワーク	
2	文献レビューとその方法	講義	
3	文献検索の実際(1)	演習	
4	文献検索の実際(2)	演習・個人ワーク	
5	研究における倫理的配慮	講義	
6	研究デザイン(1)	講義	
7	研究デザイン(2)	講義	
8	データの収集	講義	
9	データ分析	講義	
10	研究計画書	講義・個人ワーク	
11	論文の作成、研究の発表	講義	
12	ケーススタディ・事例研究	講義	
13	文献クリティークの方法	講義	
14	文献クリティークの実際(1)	講義・Gワーク	
15	文献クリティークの実際(2)	学習交流・講義	
	試験		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 別巻 看護研究 医学書院 佐藤淑子・和田佳代子編著 JJN SPECIAL 看護師のための Web 検索・文献検索入門 医学書院			
<b>参考書・指定図書</b> 富田美加・松本直子著 看護にいかす文献検索入門 学び続けるための情報探索スキル 中央法規			
<b>評価の方法</b> 筆記試験(80点) ワークレポート(20点)			

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

科目名 基礎看護学実習Ⅱ	授業担当者 渡部 絵美	所属 中通高等看護学院
開講時期:前期	単位数:2単位	時間数:80時間
<b>授業の目的</b> 対象に応じた看護過程を展開する基本的能力を身につける。		
<b>授業の概要</b> 本実習では、対象を身体的・成因的・社会的側面から捉え、看護計画の立案および実践・評価の看護過程の方法を学ぶ。入院療養中の患者1名を受け持ち、対象との関係を築きながら、発達段階・生活習慣・背景などの情報をカルテやコミュニケーションを通して収集する。得た情報は看護過程記録用紙を用いて分類し、解剖生理、病理などの知識を活用し、科学的根拠に基づき解釈・分析(アセスメント)する。アセスメント結果を基に看護上の問題を明らかにし、問題の優先順位を判断、看護目標の設定や個別性を考慮した具体策の立案、実践・評価すると共に、立案した看護計画に沿って実践・評価する。看護実践を通して観察した患者の反応からアセスメントや計画について追加・修正を行う。既習の知識や技術を生かしながら、対象の個別性を捉えた看護過程の展開を目指す。さらに、見学や実践した看護活動を通し、自らの看護に対する考えを深めて欲しい。		
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 実習要綱およびガイダンス資料を確認し、実習目的や内容に関してイメージできていることが望ましい。また、提示された事前学習課題や実習ガイダンス資料に基づき、自己学習・技術練習をし、Learning Bowlに挙げた実習要綱やガイダンス用紙、実習記録用紙等は各自印刷して事前に準備すること。 看護技術は習得するのが目的ではない。対象にとってより良い援助とは何かを考え、患者の反応を確認しながら、安全・安楽な援助が提供できるよう、技術練習に取り組んで実習に臨むこと。		
<b>授業計画</b> 1. 日程・実習場所は、ガイダンスに準じる。 2. 患者1名受け持ち看護過程の展開をする。 3. それぞれの看護計画及びサマリーをケースカンファレンスで検討する。 4. 看護計画に基づいて毎日の行動計画を立て、実践する。 5. 1日の実習内容と学びはカンファレンスで交流した後、看護過程用紙に整理し、翌日提出する。 6. 実習終了カンファレンスで看護についての学びを交流する。		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 ブックライブラリー 根拠と急変対応からみたフィジカルアセスメント 医学書院 ブックライブラリー フィジカルアセスメントの根拠がわかる! 機能障害からみたからだのメカニズム 医学書院 ブックライブラリー 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 医学書院 ブックライブラリー 緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 医学書院		
<b>参考書・指定図書</b> 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア		
<b>評価の方法</b> 実習評価表に基づいて評価する。		

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 基礎看護学実習Ⅲ	<b>授業担当者</b> 小田嶋 陽子	<b>所属</b> 中通高等看護学院
<b>開講時期</b> : 前期	<b>単位数</b> : 2 単位	<b>時間数</b> : 80 時間
<b>授業の目的</b> 対象の病態生理を理解した上で看護実践し、気づき・解釈・反応・省察のプロセスを通して臨床判断能力の基礎を養う。		
<b>授業の概要</b> 本実習では、その場その場の患者の状態を判断し実践できる能力を養うため、気づき・解釈・反応・省察のプロセスを通して臨床判断の基礎を学ぶ実習である。「看護師のように考える」ことをめざし、対象への「今」一番必要な看護を実現するための思考を学ぶ。 患者一人を受け持ち、情報獲得しながら関連図を作成し、全体像を把握する。患者目標(ゴール)を決定、看護の方向性を明確化し、対象に起こりうる問題を理解した上で、行動予定を立て看護実践する。その際の気づき・解釈・反応・省察をする。臨床指導者・教員との実践から「何に気づき、どう解釈し、どのように行動しているか」、看護師の思考過程が学べるようにしていく。 実習ポートフォリオを作成し、自ら考えて学んだ内容を時系列で入れていくことで、学習や自分目標(ゴール)への成長プロセスを可視化し、成長報告により価値ある成長と願望を確認する。		
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 注意点・事前学習の内容は、実習要綱・実習ガイダンス参照。		
<b>授業計画</b> 1.日程・実習場所は、ガイダンスに準じる。 2.自分目標(ゴール)、事前学習を入れた実習ポートフォリオを作成する。 3.患者情報を記録用紙に整理し、患者目標(ゴール)、学習内容を実習ポートフォリオに入れる。 4.患者の全体像を把握し、看護の方向性、起こりうる問題から行動予定を立てる。 5.看護実践し、気づき・解釈・反応・省察したことを記録用紙 4 にまとめる。 6.記録用紙 4 を用いて臨床判断の学びカンファレンスを行い、グループで交流する。 7.実習で獲得したことや学び(ゴール)のプロセスをプレゼンテーションし、成長確認する。		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 看護技術プラクティス 第4版 学研 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 医学書院 ブックライブラリー 緊急度・重症度からみた症状別看護過程+病態関連図 医学書院 ブックライブラリー 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 医学書院		
<b>参考書・指定図書</b> 看護がみえる vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 看護がみえる vol.2 臨床看護技術 第1版 メディックメディア 看護が見える vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア		
<b>評価の方法</b> 実習評価表に基づいて評価する。		

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 成人・老年看護学実習 I	<b>授業担当者</b> 工藤 洋平	<b>所属</b> 中通高等看護学院
<b>開講時期</b> : 中期	<b>単位数</b> : 2 単位	<b>時間数</b> : 80 時間
<b>授業の目的</b> 急性期・周手術期にある対象に、患者の状況に即した看護を判断し実践する能力を養う。		
<b>授業の概要</b> 本実習は急性期・周手術期を対象に健康に急激な変化や身体に大きな侵襲を受けたことで、身体的苦痛や精神的にも不安を抱きやすい患者の全身状態がどのように変動するか予測して、患者の状況に即した看護を実践することを学ぶ。また、術後起こりやすい合併症について、予防と早期発見のための観察を行い、退院を見据えた離床や退院支援の方法を学ぶ。		
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 事前に急性期・周手術期看護・術後合併症について自己学習をして臨むこと。実習に向け技術ノートを見直し、必ず技術練習をしてから実習に臨むこと。その他、各担当教員からの課題提示あるため計画的に学習を進めること。		
<b>授業計画</b> 1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。 2. 実習ポートフォリオを作成し実習を展開する。 3. 患者を 1～2 名受け持ち看護を実践する。 4. 日々の状況に即した観察・アセスメント・実践を行い、自らの臨床判断プロセスを振り返る。 5. 手術室事前見学を行い、機会があれば受け持ち患者の手術見学をする。		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 消化器 医学書院 系統看護学講座 専門 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門 循環器 医学書院		
<b>参考書・指定図書</b> 山口瑞穂子、関口恵子監修 系統別看護過程の展開 第 5 版 学研 中島恵美子、伊藤有美監修 これならわかる！ 術前・術後の看護ケア ナツメ社 病気がみえる Vol.1 消化器 第 5 版 メディックメディア 病気がみえる Vol.11 運動器 第 2 版 メディックメディア 病気がみえる Vol.2 循環器 第 5 版 メディックメディア		
<b>評価の方法</b> 成人・老年看護学実習 I のルーブリック評価に沿って評価		

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります

<b>科目名</b> 成人・老年看護学実習Ⅱ	<b>授業担当者</b> 日野 由樹子	<b>所属</b> 中通高等看護学院
<b>開講時期</b> : 中期	<b>単位数</b> : 2 単位	<b>時間数</b> : 80 時間
<b>授業の目的</b> 回復期にある対象や慢性疾患を抱える対象に、患者の状況に即した看護を判断し実践する能力を養う。		
<b>授業の概要</b> 本実習は、回復期にある対象や慢性疾患を抱える対象の特徴を理解し、その人らしい生活を支える看護について学ぶ。これまでその人が生活していた家庭や社会における役割、生活習慣、価値観や心理的側面を理解することが求められる。回復期にある対象への看護を通して、変化した身体機能に合わせた日常生活行動の獲得やセルフケア獲得に向けたアプローチ方法を学ぶ。慢性疾患を抱える対象への看護を通して、疾病と上手く付き合い、その人らしい生活や生き方を実現していくことを支援するアプローチ方法を学ぶ。また、対象への医療チームアプローチの実際を知ること、チームにおける看護の役割・機能について理解を深めることができる。		
<b>受講上の注意・事前学習の内容</b> 注意点・事前学習の内容は、実習要綱・実習ガイダンス参照。		
<b>授業計画</b> 1. 日程・実習場所はガイダンス用紙に準じる。 2. 回復期にある、または慢性疾患を抱える、成人期または老年期の患者を受け持つ。 3. 看護計画に基づいて毎日の行動目標・行動予定を立て、実践する。 4. 実習内容と学びを日々のカンファレンスで交流する。 5. 受け持ち期間中の看護計画と実践を評価カンファレンスで検討する。 6. 実習ポートフォリオを用いて、実習で獲得したことや学びをプレゼンテーションし合い、知の共有をする。		
<b>テキスト</b> 系統看護学講座 専門 呼吸器 医学書院 系統看護学講座 専門 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門 運動器 医学書院 系統看護学講座 専門 腎・泌尿器／内分泌・代謝 医学書院		
<b>参考書・指定図書</b> ブックライブラリー 病期・病態・重症度からみた疾患別看護過程+病態関連図 医学書院 系統看護学講座 専門 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ブックライブラリー 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術 医学書院 看護がみえる vol.3 フィジカルアセスメント 第1版 メディックメディア		
<b>評価の方法</b> 成人・老年看護学実習Ⅱ評価表に沿って評価する。		

\*この科目は実務経験のある教員による科目となります